

第4次白馬村図書館基本計画

令和8年6月

白馬村教育委員会

目 次

<u>第1章 計画の基本的な考え方</u>	1
計画策定の背景と目的	
計画の位置づけ	
計画期間	
計画の構成	
計画の基本理念	
<u>第2章 これまでの取り組み</u>	3
基本方針① 子どもの読書活動の推進	
基本方針② すべての人に開かれ、寄り添う運営	
基本方針③ 成長を支える資料の充実	
基本方針④ 暮らしやまちづくり、課題解決の支援	
基本方針⑤ 多様な人々や団体との協力・連携	
基本方針⑥ 情報の発信と情報技術の活用	
基本方針⑦ 持続可能な運営体制の構築	
<u>第3章 白馬村図書館の現状</u>	8
図書館施設の概要及び運営体制	
図書館の利用状況	
<u>第4章 計画の基本方針と施策の展開</u>	10
基本方針① 子どもと本をつなぎ、心の豊かさを育む	
基本方針② すべての人とつながり、輪をひろげる	
基本方針③ 過去とつながり、未来へとつなぐ	
<u>第5章 基本方針に対する施策推進及び整備</u>	13
施策の推進 / 計画の検証・評価	

第1章 計画の基本的な考え方

■ 計画策定の背景と目的

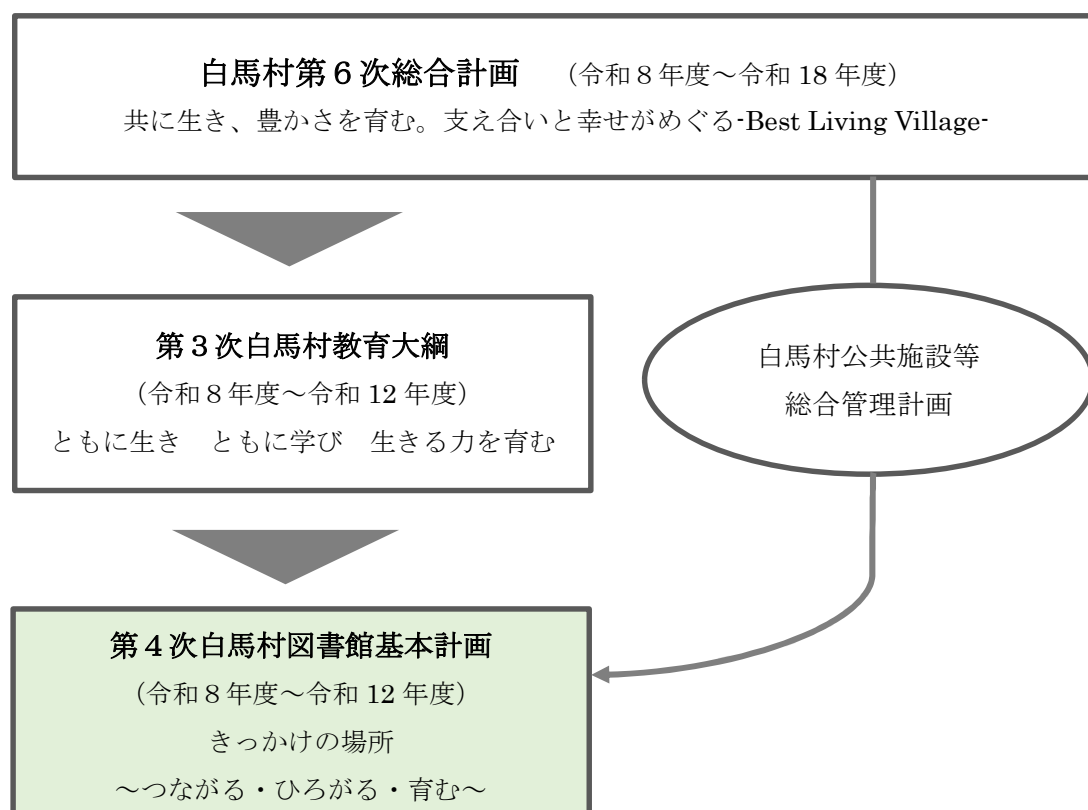
現在の白馬村図書館は、法務局として使われていた施設を後利用する形で供用が開始され、開設から25年以上が経過しています。図書館として建設された施設ではなく、面積が限られていますが、理想的な図書館サービスの提供を目指し、図書館システムの導入や、北アルプス地域の図書館との広域連携、県内市町村と県による協働電子図書館の活用など、利用者の利便性向上に取り組んできました。

近年、村民を取り巻く環境は日々変化をし、国際化の進展や価値観・ニーズの多様化、インターネットサービスやSNSの普及・発展など新たな課題も出てきています。

現行の第3次白馬村図書館基本計画の計画期間が令和7年度末で終了することから、これまでの図書館事業を振り返り、一層の図書館サービスの向上を図るべく、今後5年間の図書館運営に関する計画を策定するものです。

■ 計画の位置づけ

本計画は、「白馬村第6次総合計画」に基づく分野別個別計画として策定し、白馬村の関連する各種計画・施策と整合を図りながら、今後の図書館運営に必要な具体的施策の基本計画とします。



■ 計画期間

本計画の計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

■ 計画の基本理念

第6次総合計画の基本理念では、「自然環境の豊かさも、心の豊かさも、人とのつながりなどの社会的な豊かさも、みんなで育み、みんなで享受・共有することが、白馬村民の幸せにつながります。」と記しています。

本を通じて、読書の楽しみや学びを支援し、人と情報をつなぎ、豊かな暮らしや心を育む拠点となるよう、基本理念を次のとおりとします。

きっかけの場所
～つながる・ひろがる・育む～

誰もが本と親しむ機会や環境をつくり「知る」や「学び」を支え、次世代を担う子どもたちをはじめとする村民がふれあい・交流できる場所として、村民に寄り添う図書館を目指します。

第2章 これまでの取り組み

現行の「第3次図書館基本計画」では、7つの基本方針のもと様々な施策に取り組んできました。その主な取り組みと成果を示します。なお、第3次図書館基本計画において新たに目標化したものについて、項目欄に「【新】」と記載しています。

■ 基本方針① 子どもの読書活動の推進

テレビやインターネット等の様々な情報メディアの発展・普及や生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの読書離れが指摘されています。子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにできるよう、子どもの読書活動推進に向けた取り組みを行ってきました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
子ども読書推進計画の策定【新】	策 定	次期計画で策定	未策定
蔵書冊数に占める児童図書の割合 (雑誌視聴覚除く)	約 25%	21%	約 20%
おはなし会等の開催回数	30 回／年	6 回／年	24 回
ヤングアダルト (13～18 歳) 資料 の受入冊数【新】	50 冊／年	42 冊／年	未把握

〔取り組みの結果〕

○令和4年度から、読書に興味を持つきっかけとして読書通帳を作成しました。読書の成果が可視化され、読書の達成感が得られやすく、また記録用として利用できるのも、年齢を問わず持ち帰っているのが見受けられました。

○様々な本を借りてもらうため、「読書ビンゴ」や「読書おみくじ」「目隠し本」等のイベントを行いました。イベント期間中は、毎日来館するお子さんもいました。利用者カードがないと参加できないイベントもあり、課題も残りました。

○おはなし会は、令和3年度に読み聞かせボランティア団体が解散したこともあり、上記のようなイベントに変更して行いました。

■ 基本方針② すべての人に開かれ、寄り添う運営

年齢や国籍、障がいの種類や有無にかかわらず、あらゆる人が利用しやすい図書館運営を目指した取り組みを行ってきました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
有効登録者数	1,000 人	680 人	792 人
新規登録者数	200 人	128 人	191 人
人口一人あたりの貸出冊数	5 冊／年	2.8 冊／年	3.0 冊
障がい等に配慮した資料点数	150 点	大活字本 111 点	124 点
外国語資料の開架冊数	500 冊	942 冊	161 冊
季節や時事に応じた展示	20 回／年	12 回／年	18 回／年

〔取り組みの結果〕

- 利用者登録のルールを見直し、一定期間北アルプス自立圏内に滞在される方にも、短期利用者カードを発行し、より多くの方が図書館を利用できるようにしました。
- 市町村と県による協働電子図書館（デジとしょ信州）が、令和4年8月5日からスタートし、24時間いつでも貸出ができ、スマートフォンやパソコン、タブレットで本が読める環境作りを全県で行いました。令和5年には、アクセシブルライブラリー事業がスタートし、視覚障がい者の読書をサポートできるよう取り組んできました。
- 書庫の一部を開放し、誰でも手に取れるように棚を移動させ開架としました。閉架書庫にあった外国語資料や手塚治虫の漫画全集などを、新たに開架とすることができました。
- 季節や時事に応じた本の展示は、利用者への貸出期間が3週間のため、展示期間の平均が約1.5ヶ月となり、展示スペースの確保や展示方法が課題となりました。

■ 基本方針③ 成長を支える資料の充実

近隣や全国の図書館と比較して蔵書数が少ない状況が長年続いていましたが、購入や寄贈により、資料が増加傾向にあります。保管スペースが限られることから、量だけでなく質を重視することも求められますが、幅広い要望に応えられるよう、資料の収集・保存に取り組んできました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
資料収集方針・蔵書計画【新】	策 定	一部策定	未策定
選書・除籍基準【新】	策 定	一部策定	未策定
資料の受入（購入・寄贈）冊数	1,500 冊	1,438 冊	1,246 冊
新聞・雑誌等の受入タイトル数	8 タイトル	25 タイトル	3 タイトル
視聴覚資料所蔵点数	500 点	531 点	475 点
郷土資料の蔵書数	4,500 点	3,765 点	4,416 点

〔取り組みの結果〕

- 資料収集基準、寄贈図書受入基準、資料除籍基準について策定しました。蔵書計画や選書基準については次期計画で引き続き策定に向けて取り組みます。
- 令和3年5月にブックオフと契約し、寄贈された巻数不揃いの資料の補充や不明本、リクエスト本等をよりよく購入することができました。
- 令和4年度から雑誌の予算を確保し、受入タイトル数を増やすことができました。
- 協力図書や北アルプス自立圏内の図書館に問い合わせを行い、郷土資料の収集に努めました。白馬村図書館で郷土資料としなかった資料は、関係自治体に伺い寄贈しました。また「まちの記憶アーカイブ」で郷土資料を新たに作成する予定です。
- 郷土資料は、白馬村と関係が少ない県内関係の図書を一般図書として見直し、また関係自治体へ寄贈し、白馬村により身近な周辺地域の資料のみとしたため、蔵書数が減少しました。

■ 基本方針④ 暮らしやまちづくり、課題解決の支援

図書館は、読書活動の支援だけでなく、暮らしに役立つ情報や、地域課題解決に向けた取り組みに必要な情報等を提供する役割を担っています。必要な人に必要な情報をお届けできるよう、質の高いサービスの提供に向け取り組んできました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
地域課題等に関する展示	7 回／年	1 回／年	5 回／年
レファレンス受付件数	1,200 件／年	128 件／年	979 件／年

〔取り組みの結果〕

- 地域の課題に関する展示として、神城断層地震を振り返る展示や、防災、接客英語関連の展示を行いました。また多文化共生や民泊など、地域が抱える懸案事項に留意し、関連資料の選書に務めました。
- レファレンス件数は、資料についての問い合わせ等に内容を絞り、集計を行うとしたため、件数が減少しました。利用者からの問い合わせには、館内の資料のほかに、信濃毎日新聞データベース、レファレンス協同データベースを使用し、県立長野図書館に協力いただき、回答に応じていました。

■ 基本方針⑤ 多様な人々や団体との協力・連携

多様化するニーズに応えるため、ボランティアや住民団体、関係機関等との連携により、多くの人が図書館運営に参画する「裾野の広い図書館」を目指して取り組んできました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
ボランティア活動人数	12 名	5 名	6 名
関係機関と連携したイベント・展示の実施【新】	3 回／年	2 回／年	未実施
相互貸借冊数	800 件	513 件	541 件
雑誌スポンサー【新】	5 社	0 社	未実施

〔取り組みの結果〕

○令和4年度から毎年「あそびまなびフェス」で、令和5年度からは毎年9月に地域包括センターと「アルツハイマー月間」について、同年には氷河調査報告会や青少年育成社会福祉大会で関連本の展示を行いました。

○令和6年度の相互貸借は、借受357冊/貸出156冊でした。この5年間では、他図書館からの取寄せが減少し、他図書館への貸出は増加傾向でした。ブックオフとの契約や、予算の増額による蔵書の増加、雑誌の受入タイトル数の増加により、利用者が多くの資料に触れられました。

○令和5年度に雑誌スポンサー制度がスタートし3件程の問合せがありましたが、提携には至りませんでした。

■ 基本方針⑥ 情報の発信と情報技術の活用

インターネットの環境や端末が普及し、図書館を取り巻く環境が大きく変化してきました。資料をそろえて来館者を待つ受動的な運営ではなく、多様な媒体を利用して積極的に情報を発信することで図書館を身近に感じてもらうとともに、情報技術の活用による利用者の利便性向上に取り組んできました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
Facebook ページ投稿記事数	36 件／年	27 件／年	12 件／年
Facebook ページフォロワー数	300 人	85 人	14 人
ケーブルテレビ番組製作本数【新】	3 本／年	5 本／年 (R7)	未実施
来館者数	18,000 人	10,602 人	15,052 人
インターネットによる予約件数	100 件／年	494 件／年	31 件／年

〔取り組みの結果〕

○白馬村図書館の Facebook には、図書館だよりやイベント開催情報、中高生の就業体験の記事等を、月 1 回～2 回のペースで投稿しました。

○ケーブルテレビ番組制作は、白馬中学生にも携わってもらい、令和 7 年度に 5 本製作しました。

○令和 3 年 8 月からインターネット予約を開始し、令和 5 年 4 月のシステム更新により利用者ポータル機能を使えるようにしました。携帯電話で利用者番号をバーコード表示でき、図書カード代わりに利用する方が徐々に増え始めました。

■ 基本方針⑦ 持続可能な運営体制の構築

限られた職員・施設・予算で最大限のサービスを提供できるよう、職員自身の成長を心がけるとともに、廃棄本の削減等、持続可能な社会の実現に向け取り組んできました。

〔達成目標の状況〕

項 目	目標値 (R7)	実績値 (R6)	策定時 (R2)
司書の研修会参加回数	3 回／年	4 回／年	1 回／年
イベント等でのリサイクル本提供【新】	2 回／年	3 回／年	未実施
危機管理マニュアル【新】	策 定	策定 (R7)	未策定

〔取り組みの結果〕

○デジとしょ信州の全体会議に毎月、利用者支援広報部会の会議に令和 4 年度・9 回、令和 5 年度・5 回、令和 6 年度・4 回オンラインで出席しました。引き続き、全体会議、部会の会議に出席予定です。

○北アルプス広域連合の窓口担当者会議、公共施設利用促進専部会等に参加し、システム統合や各図書館の現状について意見を出し合い、課題解決を行ってきました。

○文化祭と館内で計 3 回/年リサイクルブックを実施しました。絵本や不揃いの漫画を提供し、多いときには 5 割程持ち帰られました。

○令和 7 年度に危機管理マニュアルを策定しました。

第3章 白馬村図書館の現状

■ 図書館施設の概要及び運営体制

(1) 施設概要

開館	平成10年10月8日
所在地	白馬村大字北城7025番地（旧長野地方法務局大町支局白馬出張所）
建築年月	昭和62年12月
構造	鉄筋コンクリート造
建物面積	1階：285.23 m ² 2階：188.58 m ² 計：473.81 m ² (うち、図書館占有面積：398.2 m ²)

(2) 運営体制

開館時間	午前9時から午後6時まで
休館日	毎週月曜日、祝日、年末年始、館内整理休館日（毎月最終金曜日）、特別整理休館日（蔵書点検期間）
開館日数	275日（令和6年度実績）
職員	司書3名（早番・遅番制の1日2名勤務体制）
蔵書冊数	48,107冊（開架図書25,726冊、視聴覚資料531点）
新聞・雑誌	朝日新聞・信濃毎日新聞（1年間保存） 大系タイムス（平成11年より保存） 白馬新聞（平成11年11月5日～平成20年最終号を保存）
貸出	一人10点（うち視聴覚資料3点）まで 貸出期限3週間まで
貸出対象者	北アルプス地域に住所のある方、白馬村内に通勤・通学している方
団体貸出	村内の団体へ60日間100冊までの貸出を実施
相互貸借	利用者の求めに応じ、図書館間での貸出借受業務を実施
他館連携	北アルプス地域図書館のどこでも返却可能・相互貸借無料化
レファレンス	対面のほか、電話や文書・電子メールによる質問にも対応
複写サービス	著作権法の範囲内で所蔵資料に限り複写可能（10円／枚・白黒） （50円／枚・カラー）
予約サービス	貸出中の蔵書はインターネットで予約可能
リクエスト	他の図書館からの借用または購入により対応
ボランティア	6名（整理休館日の蔵書整理・蔵書点検等）
視聴覚資料再生機（DVDプレーヤー）	3台
利用者用情報検索端末（インターネット端末）	1台（30分／回）

■ 図書館の利用状況

		R2	R3	R4	R5	R6
蔵書冊数 (雑誌・AV 除く)	全体	55,757	56,114	52,333	53,047	46,724
	一般・郷土	43,933	44,087	39,484	39,679	35,473
	児童・ヤングアダルト	10,927	11,111	11,921	12,423	10,309
	外国語表記	897	916	928	945	942
白馬村の人口	10月1日時点	8,613	8,466	8,409	8,383	8,393
来館者数		9,451	8,741	9,398	10,780	10,602
有効登録者	全体	718	711	712	725	680
	うち児童	99	97	107	107	81
	白馬村内	574	658	666	682	620
	うち児童	93	89	105	103	77
貸出冊数		26,687	22,627	25,946	26,934	25,133
相互貸借冊数	借受	423	307	377	353	357
	貸出	81	144	174	139	157



第4章 計画の基本方針と施策の展開

【基本方針①】子どもと本をつなぎ、心の豊かさを育む

読書活動は、言葉や知識を学ぶといった学習面だけでなく、思考力や集中力を養い、想像力を豊かなものにし、生きていくために必要な力を身に着けることにつながります。地域の将来を担う子どもたちの「本とつながる」を支援し、その機会を提供します。

〔現状と課題〕

- ・インターネットやオンラインゲーム、SNS など様々な情報メディアが普及し、「読書離れ」が指摘されています。
- ・本を全く読まない子どもも一定数いることから、幼少期から本に触れる習慣を付ける必要があります。
- ・学習や部活動、習い事などにより時間が限られる中で、読書をしたり、読書の優先順位が上がったりするようなきっかけづくりが必要です。
- ・おはなし会を実施していたボランティア団体が解散したこともあり、近年ではおはなし会の開催がありませんでした。
- ・「0歳～2歳向け絵本リスト」を作成しています。2年に一度内容を見直し、村の乳幼児健診時対象者に配布するほか、館内でも配布を行っています。

〔取り組み事項〕

(1) 子ども読書活動推進計画の策定

学校や関係機関と連携しながら、子どもの発達段階に合わせた読書活動を総合的に推進するため、子ども読書活動推進計画を策定します。

(2) 子ども向けイベントの実施

読書推進に向けた展示や読み聞かせを行い、本に触れる機会を提供します。

〔達成目標：令和12年度〕

項 目	目標値	備 考 (R6 実績)
子ども読書活動推進計画の策定	策 定	未策定
子ども向けイベントの実施【新】	3回／年	未実施

【基本方針②】すべての人とつながり、輪をひろげる

年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、多様化するニーズに柔軟に対応し、いつでも・誰でも・気軽に利用できる図書館を目指します。

〔現状と課題〕

- ・白馬村は移住者も多く、価値観や文化、言語も様々です。まずは一人でも多くの方に図書館へ足を運んでいただき、どのようなものが求められているか情報収集が必要です。
- ・来館が困難な方や、何らかの読みづらさを抱えている方へのサービスについて、利用者の状況や特性に応じた資料提供のあり方について検討が必要です。

〔取り組み事項〕

(1) 図書館へ行くきっかけづくり

白馬中学生に協力いただきケーブルテレビの番組を制作したように、村民や学校、団体と協力・連携して企画・制作や情報発信を行うことで関係人口を増やし、図書館に足を運ぶきっかけづくりを行います。

また、イベント情報やお知らせ等の地域情報を集約し、発信拠点となることで図書館の「新たな価値づくり」を目指します。

(2) ニーズの把握

利用者との日々の対話に加え、イベントの開催や出展等を通じて村民が求める本や資料、図書館の在り方について積極的に情報収集を行います。

また、日常における言語が多様化している実情を踏まえ、外国語資料のニーズについても情報収集を行います。

(3) デジとしょ信州をひろげる

令和4年から市町村と県による協働電子図書館（デジとしょ信州）事業がはじまり、令和5年には学校連携と、視覚障がい者の読書をサポートできるようアクセシブルライブラリー事業がスタートしました。学校の調べもの学習や朝読書等で利用してもらえるような選書や、視覚障がい者の周囲の方にも広く知ってもらえるよう広報します。

〔達成目標：令和12年度〕

項 目	目標値	備 考 (R6 実績)
関係機関と連携したイベントの開催・出展	5 回／年	2 回／年
ケーブルテレビ番組の制作	5 本／年	5 本／年 (R7)

【基本方針③】過去とつながり、未来へとつなぐ

図書館の役割である資料の収集・提供・保存を通して、過去と現在と未来、本と人と情報がつながるよう、質の高いサービス提供を目指します。

〔現状と課題〕

- ・ブックオフとの契約や館内の改修工事により開架資料点数が格段に増えてきましたが、幅広い世代の要望や知的好奇心に応えられるよう、質の高い資料の収集・保存に努める必要があります。
- ・地域の歴史や文化の記録を未来へつなぐため、保存・収集・デジタル化に取り組めるよう、その対象や方法の検討が必要です。
- ・図書館複合施設の建設は老朽化が進んだ子育て支援施設の建設を先行実施し、図書館建設については、財政状況から先送りすることとなりました。中長期的な財政状況を精査し、適切な事業実施時期を慎重に見極めます。

〔取り組み事項〕

（１）蔵書計画・資料の収集および選定基準の策定

より質の高い資料収集に向けた蔵書計画と、そのための資料^{注１}の収集及び選定に関する基準を定めます。

（２）地域資料の収集・作成

公共図書館の使命として地域資料を積極的に収集し、活用の企画立案に取り組みます。また、「まちの記憶アーカイブ」で、新たな郷土資料の作成に取り組みます。

〔達成目標：令和 12 年度〕

項 目	目標値	備 考（R6 実績）
蔵書計画・資料の収集および選定基準の策定	策 定	一部策定
地域資料の活用企画の実施【新】	1 回／年	未実施
新たな郷土資料の作成【新】	完 成	周知開始

注１ 一般図書・児童図書・参考図書・郷土資料・地方行政資料・外国語資料・視聴覚資料・障がい者用資料・逐次刊行物（雑誌・新聞等）・その他の資料（電子資料・パンフレット・リーフレット等）

第5章 基本方針に対する施策推進及び整備

■施策の推進

本計画を推進するためには、白馬村をはじめ村民・関係団体・学校等がそれぞれの役割を認識し、お互いの立場を尊重しながら各施策を進めていくことが重要です。

本村では、多様化する住民のニーズや、日々変化する生活環境を把握しながら計画を推進するとともに、「白馬村第6次総合計画」や関連する各種計画・施策との整合性を図りながら、本計画に掲げた基本方針の取り組み事項を計画的に推進していきます。

■計画の検証・評価

この基本計画を実効性のあるものとするため、その内容や達成目標について、職員による内部点検・評価及び図書館協議会による外部評価を行い、必要に応じて施策や事業、達成目標を見直し、改善を図りながら、より良い図書館運営を目指します。



白馬村「まちの記憶」 アーカイブ

白馬村図書館では、変わり続ける白馬村の町並みを、地域の記憶としてアーカイブ（未来のために保存・記録）するため、広く村内の写真を募集しています。

募集・写真または画像データ
(村内の町並みや暮らしのわかる写真で撮影時期や場所のわかるもの)

応募方法 ・白馬村教育委員会生涯学習スポーツ課または
白馬村図書館へ直接持ち込み
・白馬村図書館へメール送付
・白馬村公式 LINE で応募

「まちの記憶」
LINE 応募



■お問い合わせ 白馬村図書館
電話 0261-72-5200 電子メール: tosho@vill.hakuba.lg.jp